

## 令和7年度 第3回学校運営協議会 記録

I.実施日：令和8年2月12日（木） 15：00～16：40

II.場 所：盲学校大会議室

### III.記 録

1 会長挨拶：地域も時代に合わせて組織の刷新・再構築をしている。私たち・地域にできることを積極的に提供していきたい。

2 校長挨拶：池田地区をはじめ、地域及び関係者に本当によくしてもらった。学校運営についてのご意見を生かし時代に合わせながら必要な部分について見直しを行っている。

### 3 議題

- ① 今年度の取組の成果：施術所登録の完了について報告した。  
：学校評価について学校の自己評価を基にフォームスなどで運営協議委員に関係者評価をしてもらうよう依頼した。
- ② 持続可能な盲学校として存続していくために必要な取組に関する意見交換
  - A：地域社会の人的環境も変わってきており、地域では各組織の改編をおこなっているところである。今後、見直した地域組織との連携を図って行って欲しい。
  - B：SNS等での発信では時代に合った多くの方が利用する媒体を有効に活用できると良い。視覚の状況が悪化したり、成人途中で疾病を負ったりした方が正確な情報を得て、盲学校にアクセルできる情報発信を望む。理療科の継続性については、本科や専攻科に「生活支援」「研修・研究」の学科が設けられないだろうか。
  - C 委員：医療の進歩により、出生時及び生活習慣などによる眼疾患患者が大幅に減少した。盲学校への在籍者が減少している現状と合致する。見えにくさの支援と言っても眼球や視神経だけでなく、脳の器質的な問題や染色体異常、発達障害などでも現れる。そういった方々へのサポートも担えると障害者全体の幸福度向上に大きく貢献できるようになると思う。
  - D 委員：保護者として子供がICTの活用により、大きく成長したことを実感している。交流については、地域貢献という視点はとても良いと思う。特に、自分の得意なことを地域に還元できるような機会があると自分の自信にも繋がる。
  - E 委員：人員の限られている中で盲教育を維持発展させようと学校はできることをよく行っていると思う。感覚障害は一見すると周囲に捉えられにくい面がある。周囲への啓発を含め、その困り感を理解して支援し、持てる能力を伸ばしていくには高い専門性が要求される。その専門性を維持向上させることが盲学校の存続に直結する重要な要素である。盲学校でなければできないという魅力を築いて行って欲しい。
  - F 委員：中途障害の方にとってネックとなるのは「3年間無収入」になるという現実

である。また、これまで目から情報を得ていたものを耳中心で処理していかなければならないということも想像以上に大変で、特に高齢になるほど難しさは増す。少しでも不安を解消できるような具体的な支援方法を示せると良い。また、適切な連携機関やサポート機関に繋げていけることが重要である。

G 委員：業務負担が増えない範囲で、「ICTで他県との交流など、国内外と幅広く連携を行っている学校」ということを積極的にアピールしていくと良い。また、同じく視覚支援・センター的機能の専門性の高さも全県によりアピールして欲しい。

H 委員：人数が集まらないとサービスも提供できない。一般社会はこういった厳しい現実に縛られている。そういった視点を学校も持っていることが大切である。この協議会の場でより学校の取組や生徒の生の声を聞きたかった。現状が分からない中では学校の存続等についてあれこれ意見を言うことはできない。